midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

Feburary 2014 No.368

２月号の１枚：嵐山での新年の挨拶

［巻頭言］若者の森つくり、森を守る後継者たち

森の現場で実践・実学行動して社会へ発信

昔から洋の東西を問わず年配者がたすきリレーのように「今時の若い者は・・」と言う言葉が、言われ続けています。勿論、尊敬できる方々も沢山いらっしゃいますが、「今時の・・・」と言う年配者が、はたして社会を立派に動かしているでしょうか。かく言う私もその資格に欠ける者として悩むのです。当会の森を守る活動に来てくれている「若者たち」には、度々驚かされます。森の入口に神様を祭ってある小さな〝祠：ホコラ〟が有りますが、中・高・大学生・そのＯＢ達は、森に入る前に必ず帽子を取って頭を下げています。朝礼では、その日の計画を発表し、終礼後は結果を整然と報告してくれています。更に、活動修了後、この冬空の下で彼らは必ずグループになって活動当日の振り返りと、今後の計画を暗くなるまで確認し合っているようです。若者たちが整備を引き受けくれている「望星・なみすけの森、フォレストノバ（新星の森）」は実に美しい森に育っています。「美しい森は豊穣」と言う言葉もありますが、生態系の実に豊かな森です。

活動を開始して１６年目になりますが数年前から「若者による森づくり」の提案があり、昨年、第11期目の通常総会で、これを採択しました。1月4日に彼らは集まり、これを正式に発足しようとその準備会を立ち上げてくれました。彼らが知識として学んだことを、この森の現場で実践・実学行動して社会へ発信してくれようとしています。

当会の「基本理念：森林破壊と言う負の遺産を子孫に残さない事」と、「森つくり三原則事業（環境・経済・社会）」に、彼ら自ら編み出した「森との共生」を加えて自分たちの活動として、引き継いでくれます。活動16年目に入った「緑のダム活動」の次への姿だと胸が熱くなります。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2013.02

2月 2日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円
2月16日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]相模湖嵐山の森

1月19日（第三日曜日）

ＪＲ中央線の電車が立川駅を過ぎ、やがて多摩川に差しかかろうとする頃、車窓からは富士が西丹沢の大室山を従えて白く高く聳えている。本年初の活動日にふさわしい好天。相模湖大橋から眺める嵐山の森はすっかり冬の装いだが、イイギリやナンテンの赤い実が山肌に小さなアクセントを加えている。参加６９名。

朝礼後、山主の鈴木さんと共に山の神様へ新年のご挨拶。二礼二拝一礼。「今年も事故なく無事に作業ができますように」。神様が動き始めるのは１７日からとのことなので、願いは成就できそうだ。

昨年に引き続き、やることは盛り沢山。お花畑班は主に剪定作業と丸茂班長持参のバラの苗を植え込む予定。生命の森宣言・東京は初参加者のための林内視察とボサ刈り。高井戸中は新年の儀式としてヒノキを１本伐り倒した後、枝打ち作業へ。久々に若い声が森に返ってきた。森林整備班の石井さん、小林さんがサポート役。フォレストノバは淺野君が先頭に立ち、大月短大の学生さん達を案内しながら森の解説を行っている。

さて、斎藤体験学校長率いる木工班は仮置き場の柱と作業台づくりのための材を森から搬出する。が、これがなかなかの重労働になってしまった。大の男５、６人がかりでも悪戦苦闘。私も少しだけ参加したが、返って邪魔になってしまったかも知れない。

仮置き場の作業は午後からも続く。仮置き場は嵐山で伐った材を自然乾燥させ有効利用するためには欠かすことのできない施設である。完成するまでにはまだまだ時間がかかるだろうが、伝統工法での組み立てということもあり、どのように推移していくかが本当に楽しみである。先月から準備していた土台に砂利を敷き、それを固めてコンクリートブロックを置く。本日の作業はここまで。

ノバと大月短大チームは間伐体験。モマ工房近くの森での作業だ。新年早々掛かり木になるのは避けたいとの思いから、メンバーは慎重に事を進める。その甲斐あって見事に伐倒。短大生も新鮮な感動を覚えたようである。

活動後の新年会は例年通り相模湖交流センターで行われた。和気あいあいとした雰囲気、笑いの中にも各自が今年の抱負をきっぱりと語る。緑のダムのさらなる飛躍が期待できそうな予感を得た一日である。

内野　郁夫（本会、理事）

[報告１]
ForestNova新年の挨拶

11月17日

　あけましておめでとうございます。
　去年は、普段の森林活動に様々な人を呼ぶことが出来た年でした。自分の友達を誘ったり、他のイベントで知り合った人を森に呼んだりして、1度きりではなく定期的に定例活動に来てくれる人が増えています。
　また、主なメンバーが通っている麻布大学と、緑のダムが学術交流協定を結ぶこととなりました。協定を結んだことで、麻布大学の授業の中に森の問題を組み込んでいただき、実際に森でも作業が行われました。また、学芸大学の「緑地環境論」でも嵐山で授業が行われ、緑のダムの方と大学の教授がその対応を私たちに一任してくださり、学芸大学の方とも一緒に作業することができ、お互いの知識を森に生かしていくことができました。授業として森を使ってもらうことで、多くの人に森のことを伝え、多くの人から話を聞くチャンスになっています。
　小原の入山では、径路を補整したり、新たに作ったり、技術を教わったりすることができ、完成することもできました。その翌月からは、新たに小原に住む永井忠男さんから四阿周辺の景観間伐のお話をいただき、景観間伐や、枝打ち、ぼさ刈りなどの整備を一緒にやらせてもらいました。また仮置き場作成にも関わらせていただいており、大工をしている長谷川さんに普段扱うことができない道具を扱わしてもらったり、伝統的な技術を教えてもらったりしています。雨の日には室内で勉強会も行い、多くのことを学びました。今年は、どうしたら山に来てくださった人に森の良さを感じてもらえるかが課題です。自分たちが普段の活動で学んでいること、感じていること、考えていることを伝える術を知ることや、来てくださった人と平行に自分たちの活動もできるように工夫しなければなりません。それには知識の拡大や経験が必要です。今まで学んだことを皆で共有し、経験を積み、学び続けながら、活動していこうと思います。無事故で安全に、作業は丁寧に、いつも元気に明るく伸び伸びと、森のために行動する。去年をさらに超える活動にしていきたいです。

　最後に、ForestNova☆は、山主さん、緑のダムや相模湖地域の皆様、OB・OGの方、その他一緒に活動している仲間のお陰で活動することが出来ています。本当にありがとうございます。これからも「森と人の共助共生社会」を目指して活動していきます。今年もよろしくお願いいたします。

世持　由美子（Forest Nova）

[報告2]
全国大学生環境活動コンテストに出て

　昨年の12月26日、27日の2日間にわたり、ecocon-2013が行われました。
　ecoconとは、全国大学生環境活動コンテストという、１年に１度行われるコンテストです。環境に関心のある全国の学生が集まり、活動の成果などを発表し、交流、学習する場です。今年は沖縄から北海道まで、38もの団体が参加しました。その中で６つのグループに分かれてグループ選考が行われ、 選ばれた各グループ１団体が最終選考へ進み、審査員の評価からグランプリ、準グランプリ、そして会場賞が会場にいるすべての方々から選出されました。
　私たちForestNova☆では、運営メンバー全員が参加し発表を行いました。他にも、活動ができたと思います。結果としては、残念ながら決勝・準決勝・会場賞を逃し私たちForestNova☆は、最終選考進出まででした。
　私は今回ecoconの発表の統括を務めさせていただきました。そして、イベントが終わって賞がもらえ

なかった以上に森や人など様々なものに向けての想いを伝えきれなかったことや他にも悔しかったことが沢山ありました。それはおそらく、今回のイベントだけのことではないでしょうし、私だけではなかったと思います。しかし、ecoconに出たことによって、とても大きなものを得ることが出来たとも感じています。そして今回私が得たものは、今後私達が活動を行っていく上でも、大事なものでした。ひとによって得たものの形や大きさはそれぞれ違うと思いますが、それは私だけではないと思います。それぞれが掴んだものを忘れず、ちゃんと残るようにするために、皆で考え、話し合い、今後の活動にしっかりと活かしていきたいです。

準備の段階から最後の最後まで、周りの方々には多大なご協力をいただきました。ここまで出来たのは、ForesNova☆の仲間たち、緑のダムの方々をはじめとする皆様がいたからです。この場をお借りして、感謝の気持ちを伝えさせて頂きます。本当にありがとうございました。
今回起こった様々な出来事・経験・感じたことを胸に刻み、今後の活動も頑張っていきたいです。

川﨑　茜音（Forest Nova）

[報告3]
枝打ち報告、高井戸中学校

1月からなみすけの森づくりプロジェクトでは枝打ちを始めています。この区画では昨年に続き2年目の作業です。生徒の感想をご紹介します。

今回の作業は主に枝打ちでした。自分にとっては二回目で一回目よりもスムーズ行うことができたと思います。今月の山では雪が降ったようで、少し白くなっていました。行った時間はそれほど早くはありませんでしたが霜柱が立ち、凍っていました。はじめは新年の初めで今年も怪我なくできるように一本間伐をしました。主な作業は午後からで、暖かく作業がしやすかったです。梯子は三つ使用して、それぞれ一回は作業しました。自分がやった木は枝がたくさん生えており、はじめは梯子も掛けることもできませんでした。もうそろそろで三年生になり、活動に参加できる回数も少なくなってきましたが、一回ずつ楽しみながら作業をしていきたいと思いました。（２年生男子）

今回、枝うちは二回目です。まず、はしごと幹が絶対に離れられないようにする頑丈な結び方「げか結び」。その結び方はとても合理的で人の知恵を感じました。今後枝打ちをする際に、げか結びを知らない人にやり方を教えたいと思いました。
次に枝打ちの必要性についてです。最初は薄暗かったのが、どんどん枝打ちをするうちに光がさしてあかるくなった。普段は間伐をすることで周りに日光がいくようにしていたが、森を明るくする方法はそれだけではないことを改めて知った。
このように枝打ちをして知った知識や発見することの楽しみを次の森に活かしたい。また枝打ちはとても楽しくて夢中になったが、気を許している分危険も伴う。そのことを肝に銘じ、初心に戻って作業の役割も考えていこうと思いました。（２年生女子）

今まで一度も森で枝打ちをしたことがなかったので少し怖かったです。
枝打ちは、細い梯子を木に立てかけて少し固定して、梯子に登って飛び出た枝を切り落とします。梯子から落ちた時のためにつけるベルトが、木に巻きつけるだけで落ちないのでとても驚きました。
しかし、自分が枝打ちをしようとすると怖くて高いところまで登れませんでした。なので、ほとんど作業できませんでした。次の枝打

ちのときは、もう少しできるようになりたいです。（２年生男子）

今回の森での作業は枝打ちをしました。今回僕は初めて枝打ちをしました。枝打ちは梯子に登った状態で枝を切るので難しく大変でした。また安全のため、ベルトを着けていました。最初のうちはなれてはおらず、あまり作業がうまくできませんでした。下のほうは出来ましたが、一番上の所での作業は怖くてできませんでした。部長は枝打ちが好きでとてもすらすらと作業をしており、一番上の所に乗って枝打ちをしていました。枝打ちは難しく大変ではありましたが、楽しく作業をできました。下で作業を見ていたときはあまりする気はなく、やりたくはなかったのですが、やってみると思った以上におもしろかったです。部長さんのように作業ができるように頑張りたいです。（２年生男子）

今回の森は枝打ちをしました。実は枝打ちをするのは初めてで、少し怖かったのですが、それほどでもなかったです。下から見ると、「梯子の足場が小さいな」とか「高いな」とか思っていたのですが、登ってみるといつもと違う視線から森が見渡せて新鮮でした。それと、腰につけるベルトがとても「ごつい」ことに驚きました。上から落ちたらけがをしてしまうかもしれない高さなので、そのぐらいでないといけないのかなと思いました。

去年の一月の活動では雪が積もっていましたが、今年は霜が１０センチくらいになっていました。とても寒くて「こんなんで作業できるか」と思いましたが、動いて作業していたら、いつの間にか体がぽかぽかになりました。（２年生女子）

来月以降も作業を続けていこうと思いますので、今後ともご指導よろしくお願いします。

宮村　連理（本会、理事）

[報告4]
ヒイラギとモクセイ

毎月通う嵐山、尾根筋に出て見上げた目の前にヒイラギの白い花がありました（ヒイラギの花、左）。ヒイラギはモクセイの仲間です。モクセイが強い香気を放って咲くのは秋（モクセイの花、中）。でも今は11月も後半、淡い香が鼻をくすぐるモクセイに似た白い花がありました。こんな寒い時期に花を咲かせるのを初めて知って驚きました。この時期に花を咲かせる利点は何なのだろう、これから勉強する題材が見つかりました。ついでながら、この年末年始、ドイツに行っていて、クリスマスの木として知られるセイヨウヒイラギを見ました。これはモチノキ科で、ヒイラギの葉が対生なのに対してセイヨウヒイラギは互生です。トゲのある葉と赤い実はキリストの受難と血を現すとされ聖なる木なのだそうです（セイヨウヒイラギの実、右）。日本のヒイラギだって、節分の時期鬼を撃退する聖なる木なのだと考えると、種は違っても彼我の考え方に共通点を探れるように思いました。

桜井　尚武（本会会員、森林・自然環境技術者教育会会長）

会員コーナー

●会員のコーナーでは、皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたします。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。また、こちらのコーナーへの投稿や写真の提供もお待ちしております。

●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。
　領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。
　また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。
　振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入して、機械操作にてお振り込みいただけると助かります。

世田谷郵便局　（記号）10000-（番号）65791651

●第12期（2013年9月～2014年8月）と2015年3月まで
先月号に続き、会へのご支援いただいた方です。
会員のみなさま、会へのご支援ありがとうございます。（掲載は振込順になります）

正会員
東海大学付属望星高校、安藤幸義

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１６年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail：info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
corner●midorinodam.jp　会員コーナー専用アドレス

協働団体：セブン-イレブン記念財団、相模原市（市民協働推進課）、
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、
神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、
マルモ出版